

contents

| | |
|-------------------------|-------|
| 土屋公雄展 夢のあとに／交差する時間 | [2～3] |
| 所蔵品によるテーマ展 | [4] |
| 〈イベント報告〉 | [5] |
| 「光と遊ぶ超体感型ミュージアム 魔法の美術館」 | |
| 〈イベント報告〉 | [6] |
| 「平成24年度 ふくいキッズミュージアム」 | |
| 福井県立美術館友の会 | [7～8] |
| お知らせ・貸館情報 | [8] |

表紙：土屋公雄「夢のあとに」制作風景（土屋公雄展より）



新作インスタレーション

夢のあとに／交差する時間

土屋公雄 展

会期◎2012年

9/16日～10/21日

会場◎福井県立美術館／開館時間◎午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)／休館日◎9月24日(月)、10月15日(月)／観覧料◎一般800円、大高生500円、中小生300円 ※30名以上の団体は2割引 ※学生割引は学生証の提示が必要です ※身体障害者手帳等所持者とその介護者1名は半額(ただし障害者手帳等に介護印のある方のみ)／主催◎福井県立美術館／共催◎福井新聞社／後援◎福井県教育委員会

土屋公雄(つちや・きみお)は、1955年福井県生まれの彫刻家、環境アーティストです。80年代半ばから発表を始め、流木や自然木を集積するプリミティブで神話的な作品群を経て、90年代より家屋の廃材や灰を精緻かつ大胆に構成する表現へと展開しました。一貫して「所在」「記憶」「生-死」「時間」といった、根源的なテーマが探求されています。

朝倉文夫賞、現代日本彫刻展大賞を受賞し、サンパウロビエンナーレに選出されるなど、日本を代表するアーティストとして活躍。世界各地より招待され、土地や人々の記憶を刻むパブリックアートも数多く手がけ、国内では丸ビルモニュメントや、東京空襲犠牲者追悼・平和モニュメント制作でも知られています。

本展では作家の円熟をとらえ、福井の記憶や風土も盛り込みながら、これまでの集大成を、美術館全館を使い大規模な新作インスタレーションとして展開します。

AFTER A DREAM / TIME CROSSED



◎土屋公雄オフィシャルサイト

<http://www.kimio-tsuchiya.com/>

略歴:

- 1955 福井県福井市生まれ
- 1989 ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ美術彫刻科修士課程修了
- 1990 第3回朝倉文夫賞受賞、フライマル・スピリット展(ロサンゼルスカウンティ美術館など巡回)、「ETERNITY」フランス ヴァシビエール現代美術センターでの個展
- 1991 第14回現代日本彫刻展大賞受賞
- 1992 第13回神戸須磨離宮現代彫刻展優秀賞受賞「所在」青山スパイラルガーデンでの個展
- 1993 五島記念文化賞受賞
- 1996 「虚構と記憶」原美術館での個展
- 1999 英国オナラリー賞受賞(ロンドン芸術大学より名誉学位授与)
- 2000 シドニーオリンピック2000・モニュメント制作
- 2001 東京空襲犠牲者追悼・平和モニュメント制作
- 2002 第25回サンパウロ・ビエンナーレでの個展
- 2003 第11回本郷新賞受賞、「記憶の家/覚醒する時間」発電所美術館での個展「UNDEVELOPED MEMORY」ダブリンギネスアートセンターでの個展
- 2004 作品「記憶の領域」が文化庁買上げとなる
- 2005 「未現像の記憶」金津創作の森での個展
- 2006 日本のパブリックアート展/世田谷美術館
- 2009 土屋公雄APT設立、水と土の芸術祭にて「海拔ゼロ」プロジェクト
- 2010 愛知県立芸術大学プロジェクトチームを結成、瀬戸内国際芸術祭にて「MEGI HOUSE」制作

現在 愛知県立芸術大学 教授 武蔵野美術大学 客員教授 日本大学芸術学部 客員教授



新作映像作品「雨の記憶／ANCIENT RAIN」より



新作「交差する時間」展示プラン



「未現像の記憶」2002年



「moon」

本展の見どころ

① 過去最大規模のインスタレーション

近年大規模な野外プロジェクトを精力的に発表し、国際的にも高く評価される土屋公雄。しかし、美術館での大規模個展は7年振りとなります。今回、代表作から最新作まで土屋の全貌を紹介する、日本の美術館における待望の大規模個展です。美術館ならではの精緻な展示によりアーティスト土屋公雄の創造の本質が開示されます。

② 3.11震災との対峙

家屋の廃材、灰など現代都市の解体物を素材に、廃墟のイメージを表現に重ねてきた土屋にとって、3.11以降の光景は、その表現が対峙すべき現実となりました。現地に何度も赴きながら、自身の表現を問うことで、本展の「夢のあとに／交差する時間」というコンセプトが構想されました。今回の発表には、大きな問いとメッセージが込められています。

③ 大観VS土屋公雄？

公立美術館での展示という機会を生かし、美術館コレクションと土屋作品とのコラボレーションを、常設展として開催します。作家の代表作「Moon」が、同じく月をテーマにした古今東西の優品と出合います。土屋にとっても初の挑戦となります。



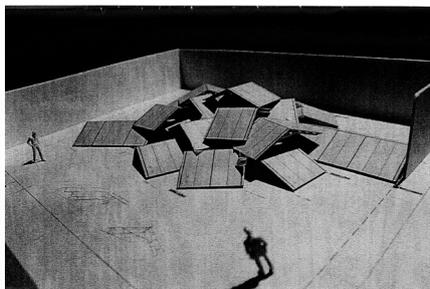
「不在」1992年

④ 最新の映像作品《雨の記憶／Ancient Rain》を本邦初公開

展覧会では、創作の軌跡に土屋の幼少期からの記憶が重ねられてもいます。福井での長期撮影を行いながら、展示の重要な導入部をになう映像作品が生み出されました。記憶の風景とともに、身体的な湿り気感覚が呼びさまされます。観る者は、土屋の個人的な体験を離れ、大きな時間の流れに包みこまれて行きます。

⑤ 多彩な関連イベント

展示会場を移動しながら、作品に合わせて曲を変えて演奏されるチェロコンサート。土屋自身によるギャラリートーク。ゲストを迎えての講演会など盛りだくさんに開催されます。



新作「雨の記憶／少年時代」展示プラン



土屋公雄A P T「海拔ゼロ」2009年 *参考図版

■ 関連企画

【講演会 トークショー】

講師：塩田純一 氏 (美術評論家、新潟市美術館館長)

土屋公雄 氏 (アーティスト)

日時：9月16日(日) 午後2時～

会場：当館講堂 ※聴講無料

【チェロコンサート】

講師：花崎薫 氏

(チェリスト、愛知県立芸術大学准教授)

日時：10月7日(日) 午後3時～午後4時30分

会場：当館展示室 ※要本展チケット

【講演会 トークショー】

講師：建島 哲 氏 (美術評論家、京都市立芸術大学学長)

土岡秀一 氏 (美術評論家、金津創作の森館長)

土屋公雄 氏 (アーティスト)

日時：10月8日(月・祝) 午後2時～

会場：当館講堂 ※聴講無料

【土屋公雄ギャラリートーク】

日時：9月17日(月・祝) 午後2時～

10月8日(月・祝) 午後1時～

会場：当館展示室 ※要本展チケット

[同時開催]

所蔵品によるテーマ展

「土屋公雄コラボレーション展 一月・MOON 一」

※本展チケットにてご覧いただけます。

〈展示予定作品〉

①「あの時」 AT THAT MOMENT

(時計とロープによるインスタレーション)

②「不在」 ABSENCE (ガラスと灰による作品)

③「雨の記憶／ANCIENT RAIN」

MEMORY OF RAIN (映像作品)

④「雨の記憶／少年時代」

MEMORY OF RAIN/BOYHOOD (雨のインスタレーション)

⑤土屋公雄作品記録映像

⑥「生きられた家」 A HOUSE WHERE I LIVED (葦光の作品)

⑦「夢のあとに」 AFTER A DREAMS (ガラスの家)

⑧「交差する時間」 TIME CROSSING

(柱113本によるインスタレーション)

⑨「分水嶺」 DIVIDING RIDGE

(鉄フレーム内に約50個の椅子)

⑩「月」 HOMETOWN MOON

⑪「ガラスのバラ No.1」 THE FRAGMENT OF GLASS

⑫「ガラスのバラ No.2」 THE FRAGMENT OF GLASS

⑬「ガラスのバラ No.1」 THE FRAGMENT OF GLASS

⑭「ガラスのバラ No.2」 THE FRAGMENT OF GLASS

⑮「ガラスのバラ No.3」 THE FRAGMENT OF GLASS

⑯「ガラスのかたち」 THE FRAGMENT OF GLASS BRASS

⑰「ポートレート」 PORTRAITS (鏡のインスタレーション)

⑱「沈下する時間」 THE SINKING TIME (映像作品)

⑲「記憶の向こうへ」 BEYOND MEMORY

⑳「未現像の記憶」 UNDEVELOPED MEMORY

㉑「無題No.1」 UNTITLED No.1 1986年 (ブロンズ小品)

㉒「無題No.2」 UNTITLED No.2 1986年 (ブロンズ小品)

[仮題 (作品内容)]

9/16(日)～11/4(日)

「土屋公雄コラボレーション展」

企画展「土屋公雄展」とのコラボレーション展示。土屋作品「Moon」にちなみ、「月」を題材とした館蔵品を展示します。(会期中、展示替えあり)

休館日 9月24日(月)、10月15日(月)、29日(月)

開場時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料 ●9月30日までは無料(※クールライフプロジェクトの一環)

●10月1日(月)以降

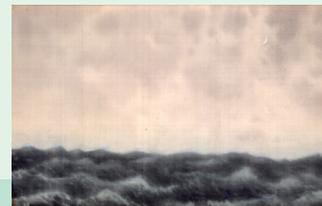
一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)

高校生以下・70歳以上・障害者手帳等をお持ちの方は無料

※「土屋公雄展」開催中(～10/21)は、同展チケットでご覧いただけます。



土屋公雄「Moon」



横山大観「海一月あかり」
1904(明治37)年

11/30(金)～12/24(月)

「古美術品選」

所蔵品の中から、絵画・彫刻・工芸の優品を展示します。

休館日 12月10日(月)

開場時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料 一般・大学生 100円

(団体30名以上は2割引)

高校生以下・70歳以上・

障害者手帳等をお持ちの方は無料



「軍扇文金合口拵」 18世紀(江戸時代)



葛飾北斎「仙人春秋山水図」 19世紀(江戸時代)

2013. 1/3(木)～27(日)

「近現代日本画の名品」新春特別展示

狩野芳崖、横山大観、菱田春草ら初期日本美術院を中心とする作家の作品をはじめ、三上誠、加山又造、横山操といった現代日本画家らの近現代日本画の名品を展示します。あわせて新春にちなみ、季節にふさわしい作品もご覧いただけます。

休館日 1月7日(月)、21日(月)

開場時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料 一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)

高校生以下・70歳以上・障害者手帳等をお持ちの方は無料



菱田春草「落葉」 1909(明治42)年



狩野芳崖「伏龍羅漢図」
1885(明治18)年

「光と遊ぶ超体感型ミュージアム

魔法の美術館」

主催／福井県立美術館
2012年7月27日(金)～8月26日(日)

《イベント報告》

福井県立美術館では7月27日(金)から8月26日(日)まで、夏休みに家族で楽しめる企画として「光と遊ぶ超体感型ミュージアム 魔法の美術館」展を開催しました。

触ると不思議な影が出てきたり、紙を舞い上げて花を咲かせたりなど体験をとまなう作品と、影や風、羽が作り出す不思議な世界を鑑賞して楽しむ作品があり、アンケートでも「本当に魔法みたいだった」「子どもが大感激していた」など大変な好評でした。

◎マッキーくん・にしむらくんといっしょにアート体験！

【講師】牧井正人(文化振興課主任) 西村直樹(当館学芸員) 【場所】当館展示室 【日時】7月28日(日) 10:00～

* * * *

7月28日(日)には小中学生を対象とした作品案内ツアー「マッキーくん・にしむらくんといっしょにアート体験！」が開催され、約50名が参加しました。県文化振興課の牧井氏と当館の西村学芸員が「みんなの同級生」という触れ込みで、マッキーくんとにしむらくんに扮しました。

牧井氏は授業名人と呼ばれる中学校美術科教員で、子どもたちの関心を引き出すアプローチはさすが。最初は恥ずかしがっていた当館の西村学芸員も、人柄のせいか、最後は子どもたちにすっかり懐かれているようでした。

* * * *

「マッキーくん・にしむらくんといっしょにアート体験！」を終えて

このイベントは、子どもたちに「魔法の美術館」をより楽しんでもらおうと企画したものです。しかし、どのくらいの子が集まってくれるのか、実は大変不安でした。美術館には、「マッキーくんって、ミッキーマウスの友達ですか？」などの問い合わせがあったようです。西村学芸員と今回の「魔法の美術館」を少しでも楽しんでもらおうと何度かミーティングを行いました。あまり打ち合わせをしすぎると新鮮感がなくなるからというアドバイスをいただきましたので、ほとんど出たとこ勝負のような勢いで臨みました。

スタートは、ビー玉のアート体験「光であそぶ」。美術館と言えば、「静かに鑑賞。触ってはいけません」が常識なだけに、「触っていいよ」の言葉にびっくりする子ども。ピンと張った布を手でぐっと押し上げると、ビー玉が音を立てながら、美しい光を反射させて動くその様子に歓声が上がります。面白いですね。子どもは、予想外のことをします。自分の体をぴょんぴょんと跳ねさせて、頭を布にヘッドインし始めました。まるで、トランポリンの逆さバネのような気持ちでアートを楽しんでいます。

プラブラックの影をつかったインスタレーション作品では、走り回って、影踏みを始めました。子どもは、遊びをとおして、展示作品を自分のアート作品にしてしまうのだなあと思いました。これが面白いですね。

「次の部屋だけは、静かにしてください。真っ暗な部屋ですが、床に座って、じっと見つめてください」。そんな風に約束したのが、クワクポリョウタ氏の作品「10番目の感傷(点・線・面)」です。光源をもった電車が、洗濯バサミやコップ、鉛筆などの身近なものを投影し、部屋の中を動いていきます。電車が台所にある「ざる」のトンネルに入るとき、その格子模様が大きな網を映しだし、ウォーとみんなの歓声が響きました。現代アートの様々な「静」と「動」との魔法にかかった子どもたちは、今までとは違った美術館の魅力を感じたことでしょう。私も、最初はちょっと恥ずかしかったのですが、子どもたちのこんなに新鮮な驚きや笑顔を見ることができ、また次回も「マッキーくん…」のシリーズをしてみたいと思いました。(文化振興課主任 牧井正人)

8月1日(水)には、芦原温泉旅館協同組合女性部「女将の会」と一般社団法人あわら市観光協会の方々が「魔法の美術館」展の視察に訪れました。同展の魅力をお客様に紹介して下さるそうで、まずは自ら体験しようと来館くださいました。この場を借りて感謝申し上げます。



マッキーくんとにしむらくん、参加者の皆さん



解説をきく子どもたち



にしむらくんと子どもたち



作品に見入る女将さん方

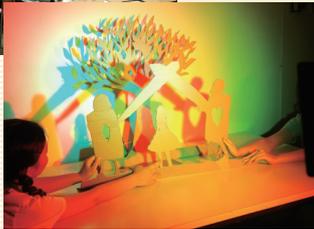


「女将の会」とあわら市観光協会の方々

《イベント報告》

「平成24年度 ふくいキッズミュージアム」

「ふくいキッズミュージアム」は、文化芸術への関心を高めてもらうため、子どもたちが親子で楽しみながら美術作品を「見て」「触れて」「つくれる」プログラムです。今年は「光と影のアートをつくろう！」(7月28日(土))、「鳥の羽でモビールをつくろう！」(8月4日(土)・5日(日))、「自分の考えた空想生物が作品になる！」(8月11日(土)・12日(日))、「銀づつみアートに挑戦！」(8月18日(土)・19日(日))の4コース計10回を開催しました。「魔法の美術館」展出品作家や造形作家、担当学芸員等による熱心な解説と指導のもと、子どもたちがつくりあげた作品は、展覧会出品作品のキャラクターとして登場したり、会場に展示されたりと大活躍し、大きな話題となりました。



「光と影のアートをつくろう！」

◆「光と影のアートをつくろう！」◆ 前野みさと(造形作家)

私は今回カラフルな影を用いた影絵のワークショップを行いました。参加した子どもたちには、段ボールを好きな形に切り抜いてもらい、それに5色のライトを投影するというものです。事前にスケッチを描いてきてもらったのですが、再現が難しいものも多く、「こんなに細かい図案で大丈夫かな」などと若干心配になりました。しかしそれは全くの杞憂でした。切り抜くのが難しい部分も、自立が難しいフォルムも、彼らは「絶対こういう風に作りたい！」という熱意で作り上げたのです。子どもたちのこだわりから、創作活動の根底にあるものを再認識させてもらった気がします。また、最後の作品発表では、作品にライトを当てていくのですが、切り抜いた形がそのまま影として現れるのではなく、ランダムな形と色の重なり合いで偶然の美しさを生み出します。意図した美と偶然の美、子どもたちにはそんな面白さを体験してもらえたのではないかと思います。

◆「鳥の羽でモビールをつくろう！」◆

小松宏誠(「魔法の美術館」展出品作家)

羽を片側にバランスを保つモビール、テーマはカラフル。カラフルな「何」が親子チームから生み出され、美術館の空間に浮かぶのか、楽しみでした。

用意した素材は、自分で形を生み出す事のできる「様々な紙」と「白い紙が巻かれた針金」。シンプルな形状の「ストロー」や「紙コップ」、「紙の器」。元々個性のある「小枝」や、「小石」。それらを着色できる、鮮やかなマスキングテープやマジックです。

小さい子どもたちには少し難しかったかもしれませんが、親子のチーム力で全員が作品を完成。仲良しな作品が並んでいたり、ストーリーがあったり、こだわりが格好良かったり、兄弟だったり、…それぞれの家族のひとつがそのまま宙に浮かんだような、愛しい展示となりました。



「鳥の羽でモビールをつくろう！」

◆「自分の考えた空想生物が作品になる！」◆

ブラブラックス[近森基/小原藍](「魔法の美術館」展出品作家)

今回のワークショップでは、「魔法の美術館」展出品の一つである「Glimmer Forest」の「光の果実」から飛び出してくる不思議な生き物を子どもたちと一緒に制作しました。神話や伝説に登場する怪物、古代生物、歴史的絵画に描かれた奇妙な動物など、様々な空想生物を参考にして、子どもたちが想像力をフル稼働して、自由に「生き物」を創造してくれました。「これは何という生き物？」と聞いてみると、「ざぐざぐたろう！」という何とも愛嬌のある名前。「これはどこに棲んでいるの？」という質問には、「森からやって来た」と即答が返ってきます。子どもたちの果てしない想像力を取り込んで、「Glimmer Forest」は、さらに生き生きとした森に成長することが出来ました。



「自分の考えた空想生物が作品になる！」

◆「銀づつみアートに挑戦！」◆ 森脇裕之(「魔法の美術館」展出品作家)

展示ギャラリーで鮮やかな色光に照らされた銀色アートオブジェを見て、子どもたちに驚きの声があがった。今回のワークショップで、日常にありふれたモノが「銀づつみ」を施すことによって特別なアート作品に変わってゆく過程を体験した。子どもたちにも「アートの視点」が少しだけ伝わったのではないだろうか。実際に手を動かす制作体験も重要であるが、展示経験を通じて、子どもたちの成果が見える形になることも大きな励みになると思う。



「銀づつみアートに挑戦！」

< 春の見学会 (平成24年6月13日～16日) >

今年度は、友の会発足35周年にあたる事を記念して、初の海外旅行を企画しました。行き先は、6月13日から16日の三泊四日で台湾です。20名の募集でしたが、応募者が多く結局52歳から81歳の30名の大所帯での実施となりました。

初日は、夕方5時30分に小松空港に集合でしたが、皆さん待ちきれない様子で5時から集まってこられ、いざ飛行機で飛び立ちました。

二日目は、午前中台北市内を観光後いよいよ待望の「故宮博物院」へ。まずは腹ごしらえと併設のレストランでの昼食。とても美味しくみなさん大満足の様子でした。そして博物院見学。普通の観光では60～90分しか見学できないところをガイドの案内90分を含めて4時間たっぷり満喫しました。雨模様で無理かと思われた集合写真も、会員の熱気に負けてか雨が上がり、無事に撮ることができました。

三日目、レトロな町九份へ。坂と階段の町ですが皆さん意欲的に散策しておられました。午後からは、台北市立美術館へ。

まずは、ユニークな建物とゆとりある広さに驚き、展示物もいろいろな分野があり堪能しました。

また、夜も夜市散策をしたり、足つぼや全身マッサージ、地元のマーケットに買い物に出かけたりと楽しんでおられました。

最終日は、清の時代の古い民宅を見学し、お茶専門店で購入物をして、思い出もおみやげも満タンにして帰途に着きました。

心配した雨にもそんなに邪魔されず、事故や病人も出ず、楽しい充実した四日間でした。会員の皆様ご協力ありがとうございました。

(友の会事務局)



台北市内観光(中正記念堂)



清の時代の古い民宅

< 参加者の声 >

今回友の会初の海外(台湾)という事で喜んで参加させて頂きました。降り出した雨の中龍山寺、忠烈祠での衛兵の交代式をみて、宗教心や国に対する思いに違いはあっても、お供えをする人達、忠烈祠でみかけた老婦人等に日本の風景と重なる様な気がしました。また故宮博物院は本当にすばらしく、気の遠くなる様な展示品の多さと象牙の透かし彫りにはため息ばかり、そして九份でのティータイムは心地よい風と共に思い出されます。

「大丈夫？」が口ぐせの宋さんお世話になりました。そして企画実行してくれた山口さん戸田さんに感謝。いつかまた再訪台湾！ (松谷道代)

* * *

前からもう一度…と、思っていました。それが、今年実現しました。二十年程前の記憶とはすっかり変わり、初めての感じでした。

宋・元・明・清の四王朝を中心に集められたと言う多くの至宝を楽しみました。もちろん、五徳の備わるとして珍重される「ヒスイ」に彫刻を施した玉器「翠玉白菜」もこの目でしっかりと見てきました。院内の見晴らしの良いカフェでお茶をして…。台北市立美術館も私にとって初めての所でしたが、とっても気に入りました。「忠烈祠」での衛兵の交代式も、一糸乱れぬ動きには改めて感心しました。ここは戦いで命を落とした軍人の英霊を祀ると言われます。この場所は二十年前の写真と全く変わっていませんでした。その他色々見学させて頂き楽しい旅行でした。本当にありがとうございました。

次はどここの国かなあ～、期待しています。(M.M)

* * *

台湾旅行は2回目であったが、即、参加する事に決めた。故宮博物院は4時間かけて見学した。前回は90分、メインだけの説明だったが今回はガイドさんが至宝のいわれを事細かくユーモアを混ぜて解説をしてくれたのでゆっくりと時代の流れに思いを馳せることができた。しかし、余りの広さに疲れもピーク、喫茶店に入ったが注文するにも意志が伝わらず日本との違いにんやわんや。やっと台湾の名物ミルクティにタピオカが入った飲み物で一息つけた！

九份には初めて行った。天気は良好。雨が降っていたら絶対に歩けない石段や石畳の小道だったが、ノスタルジックな風景が広がっている街がすてきだった。3泊4日の旅行は美術館2ヶ所をめぐり、おいしい食事を頂きリフレッシュできた。最後に企画して下さった山口事務局長様、戸田学芸員様に大変お世話になりました。ありがとうございました。(T)

* * *

日本と同じ島国ながら、2011年に建国100年を迎えたばかりの台湾は、2010年に国際花博覧会を開催。IT産業の発展だけでなく、中国本土との民間人のビザ免除を契機に、観光国としての変化が著しいと感じました。そして美術鑑賞の中でも、世界4大博物館である国立故宮博物院では、所蔵する68万点の中華文物があり、一日居てもとても時間が足りません。ガイドさんの案内と戸田学芸員のアドバイスを受けて、清朝時代の秘宝「翠玉白菜」「九層象牙球」「肉形石」、新石器時代(日本では縄文時代)の玉器「玉鷹紋圭」、北宋時代(平安時代)の器「汝窯蓮花式温碗」や明の景德鎮で作



九份

られた「明宮窯青花鍍龍天球瓶」等至宝を鑑賞し、コレクションの豊富さとレベルの高さに圧倒されました。疲れた足を癒してくれたのは、4階にある「三希堂：店名は清国乾隆帝の書齋に由来」で、漢方茶の一種「三清茶：松の実と梅の花を用いた茶」をいただきました。

1983年に開館した台北市立美術館では、二十世紀以降の台湾美術のコレクションが集められ、台湾初の近代美術館としての役割を充分果たしている作品に出会えました。油彩・版画作家「黄銘昌：Huang Ming-Chang」の「一方心田」個展では、漁港や湖水地方の風景画に自然の緻密な動きが静に置き換えて描かれ、また現代社会の人間が抱える課題を描写した作品にも作家の思想が織り込まれ、西洋画家とはまた違った鑑賞者を引き込む魅力を感じました。

個人旅行では味わえない、とても有意義な鑑賞旅行でした。また振興開発が進む台北市とそれ以外の地方都市との不均衡は、日本が抱える問題と同じになりつつあるかもしれないと感じました。建国までの厳しい歴史を振り返ると、まだまだ進んでゆく力を感じさせられた旅でした。(Y.W)



国立故宮博物院

< 友の会台湾旅行 >

美術館友の会では毎年春と秋の年2回、県外の美術館などの展覧会鑑賞を主目的とした旅行会を開催しています。そして、今年は創立35周年を記念して、以前より要望の多かった海外での美術鑑賞旅行を初めて開催しました。私も美術館職員としてこの旅行に同伴させていただきました。



台北市立美術館

今回の目的地は台湾。しかも日程も3泊4日と最長となりました。台湾には多くの美術館・博物館がありますが、今回はそのうち国立故宮博物院と、台北市立美術館での作品鑑賞が主目的です。

初日は移動のみで終わりましたが、2日目最初の訪問館は首都台北市にある国立故宮博物院です。故宮博物院は世界4大博物館の一つに数えられる館で、中国清朝皇帝のコレクションを中心とする約70万点にも及ぶ作品が收藏されており、今回の旅行の最大の目玉でもあります。故宮を訪れたのは平日でしたが、多くの来館者で賑わっていました。まずは館内のレストランでの美味しい昼食ののち、早速鑑賞開始です。最初は現地ガイドさんによる、イヤホンを使った最新のシステムによる館と主要作品の解説がありました。故宮の代表作として知られる玉で作った「翠玉白菜」や「肉形石」などを、ユーモアを交えた見事な解説に参加者一同聞き入っておられました。その後は各自自由に作品鑑賞をしていただきました。故宮の所蔵品は絵画・彫刻・工芸・典籍・家具など非常にバラエティーに富んでおり、館も巨大で展示作品数も非常に多いのも特徴です。参加した皆さんは普段福井では見ることのできない様々な名品を前に、一様に中国美術の素晴らしさに感動しておられたようです。また館は2007年の大規模リニューアル以降、照明や展示環境に様々な工夫が凝らされていました。以前にはなかった3D映像などを使用した解説やミュージアムショップ、カフェなども充実し、至る所に来館者が楽しめる工夫がなされており、私自身も大変勉強になりました。半日の鑑賞時間も足りないほど皆さん熱心に鑑賞されていました。

3日目のメインは台北市立美術館です。1983年に開館し、戦前戦中に日本で学んだ作家から現在活躍中の作家の作品まで、近代以降の台湾の美術の流れをここでは見ることができます。館はモダンなデザインによる外光を取り入れた開放的な建築で、館を訪れた時には館蔵品によるテーマ展のほか、現在台湾で活躍中の作家の個展が開催されていました。しかも美術館では研究員による解説をしていただく機会にも恵まれるなど、この幸運に皆さん大変驚き喜ばれていました。

このほか台湾市内・近郊の観光名所見学や、有名レストランでの食事など、盛りだくさんの内容に、皆さん心ゆくまで楽しんでおられたようです。初の海外も参加者の皆さんのおかげで無事に終了できました。ありがとうございました。

(学芸員 戸田浩之)

お知らせ

◎9月下旬～2013年2月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

9月24日(月)、10月15日(月)、29日(月)、11月5日(月)～8日(木)、19日(月)～21日(水)、26日(月)、27日(火)、12月10日(月)、25日(火)～2013年1月2日(水)、7日(月)、21日(月)、28日(月)～31日(木)、2月4日(月)、25日(月)～28日(木)

貸館情報 [10/31～12/24]

10/31～11/4 ● 土田帆山遺作展
11/1～11/4 ● アート・プロムナード
11/1～11/4 ● 第24回涼村社水墨画展
11/1～11/4 ● 第2回ごだわりのさをり一片山敬介展
11/22～11/25 ● 第23回福井県高等学校総合文化祭
● 美術工芸書道写真展、特別支援学校作品展
11/28～12/2 ● 日本墨書会第33回選抜書道展

11/29～12/2 ● くさぎの会作品展
12/1～12/2 ● 第44回福井県学生書道展
12/6～12/9 ● 第62回福井県勤労者美術展
12/6～12/9 ● 第80回記念くらしの墨画展
12/6～12/9 ● 新彫会彫刻展 2012
12/14～12/16 ● 第42回若越書道会展
12/21～12/24 ● 第62回福井書法展